

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	事業
資金分配団体名:	特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム
実行団体名:	特定非営利活動法人北関東医療相談会
実施時期:	2020年 6月～2021年 2月
事業対象地域:	東京都、埼玉県、神奈川県、群馬県、栃木県、茨城県、千葉県、
事業対象者:	在留外国人、難民申請者、仮放免者、住民基本台帳に載らない外国人、非正規滞在者、川口市周辺のクルド人

Version 3.2

日付： 2022年3月11日 金曜日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>無料健康診断会と結果報告会：「X線、血液検査、血圧、尿検査、身長・体重、子宮頸がん、問診」診断結果は必要に応じて紹介状が出される。</p> <p>電話相談：一人ひとりの事情を考慮し支援をする。</p> <p>新型コロナウイルスに対する活動：「誰一人取り残さない」を基本にマスク・石鹸・殺菌水を生活困窮した外国人に送付する。</p> <p>学習会：行政、地域病院MSW、関係メディアへ報告し生活困窮者の実態を知らせる。</p>
--------	---

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>【社会課題の背景】</p> <p>①無保険、無収入の外国人は全国で11万人、取り分け仮放免者は全国で3000人、難民申請者11000人。</p> <p>【困窮外国人の課題・問題点】</p> <p>①就労を禁じられ、②健康保険も無い。③そのため重篤な病気にかかる生きてもいけなくなる。</p> <p>④家賃も無く、水道光熱費も払えない。収入は、見つからないようにアルバイトをする。同国人の支援がすべてである。</p> <p>【コロナウイルスによって増す深刻さ】</p> <p>コロナウイルスによって同国人の支援者も働くことが出来ないので医療費は出すことが困難、家賃の支援も無いので払えない。</p> <p>【解決の必要性、緊迫性】</p> <p>非常に緊急度の高いことであるが国の制度上支援がしづらい、また理解があっても長続きしない。</p>
-------------------	---

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
外国人・外国にルーツを持つ人	相談先の不足	①無料健康相談会の定着と健康維持	1会場40人の健康相談と治療	初回：4月18日に川口会場で実施する。結果：5月初旬を目標とする。	4月18日の川口会場は指標としては良かった。	当事者の事業に対する理解の不足があった。自国の薬を要求し手に入らなければ抗議する。
外国人・外国にルーツを持つ人	相談先の不足	②がんの早期発見	①病院紹介と治療 1人5万円とその後の治療支援。	6月に卵巣癌の女性の手術	抗がん剤治療を含め成功した。	6月に記者会見を実施し1ヶ月で600万円の寄付があったので解決した。早く、働けるようになるか国民健康保険を使えるようにしなければ資金不足になる。
外国人・外国にルーツを持つ人	相談先の不足	③外国人集住地域による健康問題の可視化	②治療にあたっての病院との交渉	今年度は、1病院が仮放免証を持参すると支払わなくて良い、2病院では支援を援助	歯科医院2軒、内科医で目標を達成できた。	今後、できるだけ多くの媒体を通じて共通の支援する病院を探す。
外国人・外国にルーツを持つ人	就業困難	④コロナ禍における感染防止 マスク・殺菌液・石鹸の配布	前年度400人に送ったが今年度も同様に目指す。	400人	350人	多くの外国人が経済困窮となりシュリンクし送っても返却があった。
外国人・外国にルーツを持つ人	食料関連の不足	⑤食料品が買えない	当初、40世帯前後の支援を想定したが結局2022年1月で90世帯	100世帯が限度と思われる。	100世帯へ食料を送る。	当初、数世帯への食料支援であったがコロナと生活困窮で100世帯となった。今後は、病気の事があるので管理栄養士と一緒に対処することも考えたい。
外国人・外国にルーツを持つ人	相談先の不足	⑥家賃の支援	今年度は100世帯をめざしたが34世帯で終わった。	目標値を考慮する。	当初500万円	500万円を支援できたが仮放免者は働けないのでお金がいくらあっても足りない。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	<p>①過去24年間における外国人のデータから外国人の健康データは日本人のデータより悪く評価は2段階位悪い。</p> <p>②特に、BMI、血圧、コレステロールに顕著に見られる。また糖尿病も多く見られた。</p>
考察等	<p>今年度は、11月3日に健康診断会を行った。</p> <p>① 153人が受診した。68人が健診センターに行き34人が評価D、Eであった。A0人、B一人、C27人、D17人、E21人、F0人 このうちDE合わせて38人を再度病院へ治療のために同行支援に入る。</p> <p>② 当会が行ったアンケートでは経済的に苦しくて病院に行けないが84%であった。</p> <p>③ 多くが循環器系の病気で心肥大が多く、肥満が42人であった。</p> <p>④ストレスで血圧が上がりがり心臓負担が多く、食事もあるときに多く食べている傾向。</p>

V. 活動

活動	進捗	概要
①無料健康相談会の実施	ほぼ計画通り	東京都、埼玉県、群馬県（高崎市、前橋市）にて実施
		病院を使えなく健診したので費用がよりかかった。次回はレントゲン車、婦人科検診車を活用することができる体制を組みたい。
		健診センターを使う事によって一見よさそうに見えるが結局経費が掛かり無駄に見える。
		次回は早い段階で場所の選定と交渉を行い自前に行きたい。
②個別医療支援	計画通り	卵巣癌、アルコール性肝炎、胆のう炎の手術ができたこと、脳内出血治療ができたこと、寄付金が毎月入ってくるのが良かった。
③家賃と食料品支援	計画通り	家賃は大家にたどり着くまでが大変であった。食料品は前年45世帯であったが90世帯
④毎月1回の家賃支援	ほぼ計画通り	計画は12人への支援であったが結局34人に2ヶ月づつ支援できた。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<p>①在留特別許可申請し取得、記者会見をして手術費用をクラウドファンディングで集めることができた。</p> <p>・現在は、医療費の基準となる診療報酬の300%という病院が国立病院を中心に増えてきている。無料低額診療の病院は生活困窮者の増加によって逆に外国人を抑制している。他に、NHKのTV取材が数通りあったので広くお金が集めることができた。初めてバラエティ番組に取り上げられた。</p> <p>・医療相談会を始めたときからの懸念事項は、治療費は誰が賄うか、薬代金もどのようにするかであった。コロナ前から貧困で苦しむ在留外国人の生活は、コロナによって更に厳しく、大変となった。当会の出身県の赤い羽根共同募金会からは、外国籍生活困窮者の総合支援が可能となった。従来行政では、外国人の生活保護等は出口の無い対応と言われていた。当会は3年計画で支援をおこない。市民の協力によってシステムが可能となってきている。</p> <p>③当会と交流し協力関係となった診療所2カ所、仮放免証を持参すると無料で診察できるようになった。歯科医院2カ所では通訳者と受診者が同行した場合、交通費と通訳料を病院で支払いされ、その費用を当会に請求されるというシステム化が実行されるようになった。</p>
---------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>受益者の変化は特に見られない。</p> <p>①国立病院が診療報酬に、300%を請求することが標準化されてきている。本来、100%でも払えない集団に300%は何かの間違いのようにも思える。</p> <p>②無料低額診療の支援が減ってきた。</p> <p>③残されてるのは国費の投入を促すことがより効果的な制度となりうる、出来る指摘されている。システムをより明確にして社会に提案していくことが大切である、と群馬県共同募金会から指導を得た。</p>
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
東京つくろいファンド	ホームレス支援、外国人支援 日常的に連携し協力関係を構築する。
反貧困ネットワーク	生活困窮者支援 日常的に連携し協力関係を構築
移住者と連帯するネットワーク	外国人支援、政策提言 政策提言等の支援
VIDES JAPAN	外国人支援、

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	16,000,000	14,650,000	91.6%
	管理的経費	4,000,000	1,550,000	38.8%
合計		20,000,000	16,200,000	81.0%
補足説明		3月11日時点の実績額です。		

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	<p>TV：7月2日 「コロナ禍外国人の今」ぐんまスペシャル 7月14日 NHK国際報道 10月15日NHKネタドリー一般 10月24日たけしのTVタックル一般</p> <p>FM群馬 12月27日 反貧困・Amigos</p> <p>新聞：毎日新聞4月27日 毎日新聞 死後に届いた在留カード 5月29日 毎日新聞 外国人差別訴え 5月29日 上毛新聞 移民難民の人権を訴え 6月4日 バズフィードがんの治療に500万円。健康保険が使えず治療できない人がいる…</p> <p>6月7日 ダイアログピープル 在留資格の有無を「生きられない理由」にしないために 11月3日 東京新聞 第62回 医療相談会 11月3日 毎日新聞 第62回 医療相談会 11月8日 毎日新聞 東京版および大阪版 12月27日 朝日新聞群馬版 無保険外国人 いのちの危機</p>
2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの	11月3日 バナー
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	整備中	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	未公開	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	いいえ	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	いいえ	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	いいえ	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。		
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査 <input type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	いいえ	

XII. その他

自由記述
<p>別のファイルに家賃支払いのための調査票を添付 今回は、家賃支援を実施することができて仮放免者の生活実態がより鮮明になった。 このようなことで資金を得られるのであればありがたいと支援しながらアウトリーチをしていきたい。 次年度、チャンスをいただけるなら認定NPOをチャレンジし長く支援でいる体制を強化した。 御協力に感謝したいと思います。</p>